

令和3年7月8日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** パーム油のはなし2 知る・考える・やってみる！熱帯林とわたしたち
- 企画実施概要:**
- ①実施内容
 - ・IVYから、N連、JPF事業である海外支援の紹介、NGO相談員制度について説明
 - ・開発教育ワークショップ「パーム油のはなし2 知る・考える・やってみる！熱帯林とわたしたち」の実施。
 - ・SDGsに関する説明
 - ※企画当初対面で実施の予定だったが、出張者の体調不良につきオンラインで実施した。
 - ②対象者および参加人数
高校2年次 28人、3年次 12人 計40人

2 出張者氏名 小笠原 直子

3 依頼元／主催団体名 山形県立霞城学園高等学校

4 実施予定日時 令和3年6月7日（月） 13:05 ～ 15:05

5 実施場所 山形県立霞城学園高等学校（住所：山形県山形市）

6 実施報告

- ・様々な立場の人の話を聞き、森林伐採による地球や農園で働く人への影響を知り、とても悲しくなりました。また、どのような問題があり、こうなっているのか、もっと知りたくなった。
- ・自分たちが生活するためには、森林伐採をすることによってパーム油のための材料をとって生活するための収入にしているのはわかるが、森林伐採をすることによって地球温暖化は進むし、そこで生活している動物がいなくなっていくのは納得できないものがある。自分たちの暮らしを豊かにすることだけを考えるのではなく、動物などのくらしも大切だと思いました。

7 写真



パーム油のことを初めて知る生徒がほとんどだったため、冒頭パーム油について説明を行った。

(写真1)



パーム油生産国、ブランドンテーション経営者、日本の洗剤メーカー社員、消費者など、パーム油の生産、消費に関わる人を6人選出し、ロールプレイを行なった。6人以外の生徒は6人の話を聞いて自分の思いを書き出した。

(写真2)

以上

令和3年7月8日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

認定NPO法人IVY

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

国際協力活動とSDGs

企画実施概要:

①実施内容

IVYのODAで行なっている国際協力活動とSDGsの関連について、ワークショップ形式を取り入れた講習会を実施。

②対象者および参加人数

新庄東高校 E・Aコース 1年生17人

2 出張者氏名

阿部真理子

3 依頼元／主催団体名

学校法人新庄学園 新庄東高等学校

4 実施予定日時

令和3年6月17日 (木)

13:50～15:30

5 実施場所

会場名:学校法人新庄学園 新庄東高等学校(山形県新庄市)

6 実施報告

生徒のアンケートから

1 SDGsの優先度を考えた際、わたしたちと難民の人たちとは、優先するゴールが違ってくことに驚いた。

2 自分たちの国だけでは解決できない問題を抱えている国のために、国際協力は必要だと思った。

3 国際支援にはいろいろな形があること、山形にも国際協力を行っている団体があること、かわいそうだから助けるのではないことなどを知ることができた。

7 写真



難民とはどんな人たちのことなのか、難民の定義についてのワーク。

(写真1)



国際協力活動とSDGsの関連について説明

(写真2)

以上

令和3年7月1日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
開発教育協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

企画実施概要: ①実施内容:国際課題に対する問題解決のためのアクションを調査、研究している学生の中間発表に対して、コメントやアドバイスをを行う。

②対象者および参加人数

大学3、4年生(履修登録者)20名

2 出張者氏名

八木亜紀子

3 依頼元／主催団体名

上智大学 総合グローバル学部 教員 田中雅子

4 実施予定日時

令和3年6月30日 (水)

18:00～19:10

5 実施場所

オンライン

6 実施報告

学生の発表は主に、①日本の移民・難民問題を啓発する開発教育教材の開発 ②東京都議会議員選挙候補者に対する気候変動・国際協力の観点からのアンケート実施、の2点であった。①については、普及のための工夫と教育上の観点からのアドバイスをを行った。②については、すでにアンケートを実施しているNPO/NGOの事例を紹介した。

7 写真

4名の証言者  Eさん(50代) - ナイジェリア出身 - FGM(女性器切除)から逃れるため来日 - 難民申請中 - 全国で支援活動を行なっている - 来日から約30年  Nさん(50代) - イラン出身 - イラン・イラク戦争を経験 - 出稼ぎ移民労働者として来日 - 母国に帰れない事情があり、難民申請中 - 来日から約30年  Dさん(10代) - イラン出身 6歳の時、両親と共に来日 - オーバーステイのまま首都圏郊外で育つ。 - 小学3年から公立学校に通う  Bさん(10代) - 高校生 - ペルー出身の両親から日本で生まれる - 生まれた時、両親には在留資格がなかった - 日本から一度も出たことがない	「教材」としての展開(案) 1. 日本政府も批准している「難民条約」のポイントを紹介 2. 各人のエピソードを読む 3. 問いかけ ・「難民条約」に照らし合わせると、この方は「難民」? ・この方は日本で「難民認定」されただろうか? (予想) ・その理由は? (予想) 4. 「不認定」かつ「非正規滞在」等により入管施設に収容されたことを紹介。→参加者は「なぜ?」「理由を知りたい」という気持ちを抱く(話し合い) 5. 日本の移民・難民政策/入管についてインプット ©OEAR All Rights Reserved. 二次利用を禁止します 27
日本の移民・難民問題を啓発する開発教育教材の案(学生のスライドより)	教材に対するアドバイスをまとめたスライド(開発教育協会作成)

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年7月2日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人

アイキャン

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名：SDGsに関する理解促進講習会

企画実施概要：①実施内容
ヒューマンキャンパス高等学校の教職員に対して、「身近な取り組み例から考えるSDGs」というテーマで、SDGsに関する講習会を実施。

②対象者および参加人数
ヒューマンキャンパス高等学校 教員3名

2 出張者氏名 西坂 幸

3 依頼元／主催団体名 ヒューマンキャンパス高等学校 名古屋学習センター

4 実施予定日時 令和3年6月25日（金） 14:00 ～ 15:00

5 実施場所 会場名（住所：愛知県名古屋市）オンラインで実施

6 実施報告
ヒューマンキャンパス高校の教員3名に対して、SDGsに関する理解促進のための講習会を実施した。参加教員は後日、生徒に対してSDGsに関する授業を行う予定であり、そこで必要となるSDGsの基礎知識、身近な取り組み等を事例を挙げて紹介した。また、SDGsという地球規模の大きな課題を「自分事」として捉えるまでのプロセスを、クイズやワークを用いて体験していただくことで、SDGsを自身の日常生活の中に落とし込むことの大切さについて、理解促進することができた。教員の方々からは、授業内で想定される生徒からの質問に対する回答例など、具体的な質問をいただくとともに、「今後の授業で活かしていきたい」とのお声をいただくなど、教員の能力強化に貢献することができた。

7 写真

	
新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン講習会をご希望いただいた。クイズなどを用いて参加型の講習会を実施した。	SDGsという大きな目標を、日常生活に落とし込むために、対話形式で身近な取り組み例を挙げながら理解を深めた。

(写真1)

(写真2)

以上

2021年6月30日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
名古屋NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

「ボランティア」15コマの中の「国際協力について」

企画実施概要:

①実施内容

NGO活動の実情や体験談、中部地域のNGOの活動紹介（講義）

②対象者および参加人数

授業履修生 40名

2 出張者氏名

村山佳江

3 依頼元／主催団体名

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター

4 実施日時

2021年6月9日（水） 13:30 ～ 15:00

5 実施場所

オンデマンドによる配信

※6月8日にZOOMで事前撮影し、6月9日はオンデマンド形式で実施したため、相談当日の作業は発生していません。

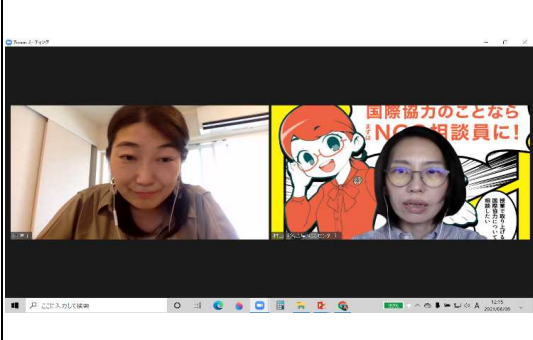
6 実施報告

・NGOについては、テレビなどの広告で見かけるような大きな団体しか知りませんでした。ほかに様々な団体があることを知り、その活動の広さを知ることができました。

・NGOという言葉は知っていても、その中身は何も知りませんでした。組織がどのように活動しているかを知り、現地でどのような取り組みをしているのか理解できました。

・本来であれば大学3年生の夏に発展途上国でのボランティアに参加するはずだったのですが、コロナ禍の影響で行けるかどうか分からない状況です。日本でできる活動があると知れて良かったです。

7 写真

	
沖直子先生から質問を受けて回答しました	パワーポイントでデータや写真、動画を使用して説明しました(全37ページ)

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年6月26日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

公益財団法人PHD協会

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名:

プラス1ネット主催の勉強会での講演

企画実施概要:

①実施内容

ボランティアグループ・プラス1ネット主催の勉強会にて、ミャンマーの民主化運動及び人道援助についてお話しする。講演は対面及びオンライン形式のハイブリッド形式で実施する。

②対象者および参加人数

同グループのメンバー、9名

2 出張者氏名

坂西卓郎

3 依頼元／主催団体名

プラス1(ONE)ネット

4 実施予定日時

令和3年6月26日 (土) 10:30~12:30

5 実施場所

国際協力・交流シェアハウス「みんなのいえ」
(兵庫県神戸市)

6 実施報告

以下は参加者からの感想である。

1. 2回目の講座で少しミャンマーのことが理解できました。関心を持ち続けることが大切だと感じました。

2. 色々な角度からのお話とても参考になりました。ありがとうございました。何かミャンマーの支援を考えていきます。

3. 今日はいろいろなお話、知らない事など勉強させていただきました。身近なミャンマーのこと、ミャンマーの国にいる人たちのことを知ることが出来ました。

7 写真



出張サービスの様子

SNSに投稿された動画に映るのは小学生の女の子。彼女は「政治は国民全員に関わっているもので、大人にも子供にも関係する。自分の国のため、自分が戦わなければならない」と述べ、5/3から学校を再開をするという国事の発表に対し「反暴教育を受けたくない。子供には未来がある。学校に行かせないでほしい」とし、拘束されたリーダーや連れ去られた方々が釈放されてから学校に戻ると宣言、大勢の聴衆の前から拍手喝采を浴びた。

(動画: Facebookより)



紹介した動画

(写真1)

(写真2)

以上

令和3年7月5日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
テラ・ルネッサンス

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名：**人権フォーラム「コロナ禍における子どもたちへの支援」
- 企画実施概要：**
- ①実施内容
当会職員がパネルディスカッションに登壇し、外務省NGO相談員として、コロナ禍における途上国の子どもの現状(両親の失職による、児童労働の増加など)を中心に解説を行った。
 - ②対象者および参加人数
京都府民。ラジオの公開生放送となり、収録動画は後日、京都府のサイトなどでも公開される。約50名ほど会場での視聴者がいた。

2 出張者氏名

栗田佳典

3 依頼元／主催団体名

京都府、公益財団法人世界人権問題研究センター、京都人権啓発推進会議

4 実施予定日時

令和3年6月25日 (金) 14:50 ~ 17:00

5 実施場所

KBSホール(京都府京都市)

6 実施報告

14:50 から待機し、15時から人権フォーラムが開始、後半のパネルディスカッション内容の準備を行い、16時からのパネルディスカッションに栗田が登壇し、外務省NGO相談員としてコロナ禍における途上国の子どもの生活など海外情勢を中心に、KBSラジオを通じて配信した。

視聴した関係者からは「日本の報道は、特に海外の情報(アフリカなど)がとても少ないのでコロナ禍における貧困や教育アクセスの格差の話はより深刻なものなのだと感じました。」という感想を受けた。

また、「日本も大変だが、世界でもコロナ禍における生活の変化が大きい。日本だけが良ければ、それでいいではなく、世界でコロナを乗り越えていくことの大切さを感じた。」というコメントもあった。

7 写真



出演の様子。左からKBS京都 笑福亭晃瓶氏のほか、ラジオDJ笑福亭晃瓶氏、中村薫氏、(公財)世界人権問題研究センター所長 坂元茂樹氏、大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科教授山野則子氏、テラ・ルネッサンス栗田佳典、KBS京都アナウンサー 梶原誠氏

(写真1)



コロナ禍における海外情勢やコロナによる子どもたちの生活の変化をウガンダを事例に紹介する栗田

(写真2)

以上

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

- 企画名:** PWJが生の現場をお伝えします！ vol.3 ～ 世界を股にかけながら地方で働くNGO職員とは ～
- 企画実施概要:**
- ①実施内容
海外事業を主な担務としているスタッフではなく、他の事業を主としながら働く、または他の事業と兼務しながら働く、そのような海外事業部に関わりを持つスタッフにスポットを当て、普段の業務や海外事業への関わりを話すOnlineイベントを実施。
 - ②対象者および参加人数
Peatix上、イベント参加者数15名
*FB Live再生時視聴者数平均約30名
*イベント終了後 FB 動画再生数 745回(7/5時点)

2 出張者氏名 坂田大三、田邊圭、近藤史門、町浩一郎、安間叙通

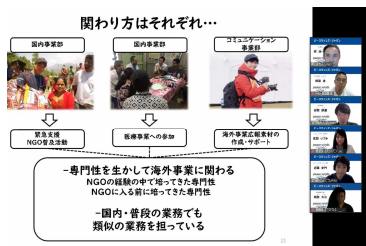
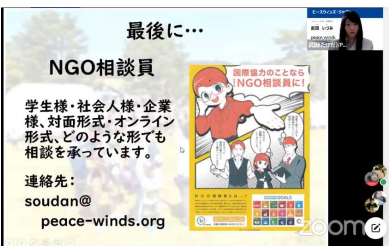
3 依頼元／主催団体名 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

4 実施予定日時 令和3年6月8日(火) 19:00-20:00

5 実施場所 オンライン

6 実施報告 今回は世界で猛威をふるうコロナウイルスにより新しい働き方・暮らし方が議論され、地方に目が向く機会が増えた中で、地方に拠点を置きつつも、国際的に働くスタッフの仕事・暮らしぶりに焦点をあてた。実際にイベント中に視聴者に行ったアンケートでは、視聴者の約4割が地方に住む人、また約2割が国際協力に関わったことがない人、のように今回のイベントのポイントでもある地方で働きながら国際協力に携わるという点に関連した参加者がいたことは、イベント実施の需要があると考えている。実際のイベントの中では視聴者から、「NGOで仕事をする事の醍醐味は何か」といったNGOの仕事に対して関心を持ってくださる内容の質問や、「実際にボランティアで働きたいがその時に必要なスキルなどはあるか」といった具体的な質問もいただくことができ、NGOの活動の理解・普及促進、また実際に関係して下さる人を増やす活動の一端を果たせたのではないかと考えている。今後も地方で働くNGOとして、地方から国際協力を盛り上げていくイベントを実施していく予定である。

7 写真

(写真1)	(写真2)	(写真3)
		
オンラインイベントの様子 海外事業との接点の説明(医師の場合)	オンラインイベントの様子 国際協力への関わり方は多様	オンラインイベントの様子 NGO相談員制度の説明

以上

令和3年7月5日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
えひめグローバルネットワーク

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 香川県立高松高等学校講演

企画実施概要： ①実施内容
地域のSDGsに資する活動や事例を、これからの未来を築く高校生に向けて紹介し、共に学ぶ機会を設け、持続可能な社会づくりのための人材育成に寄与することを目的として、高校への社会人講師派遣事業を行っていることから、高校生を対象として、国際協力とつながるSDGs普及啓発を行った。冊子「四国・国際協力団体とODA」、ES
②対象者および参加人数
高校2年生 320名

2 出張者氏名 宇賀神幸恵

3 依頼元／主催団体名 一般社団法人香川経済同友会

4 実施予定日時 令和3年6月1日 (火) 14:20 ～ 15:25

5 実施場所 香川県立高松高等学校(香川県高松市番町3丁目1番1号)

6 実施報告
講演後、生徒から以下のような感想があり、意識の高さが伺えると同時に、生徒の探求心・知識欲に応えることができたという手ごたえを感じた。
・SDGsは授業で習っていたが今回より詳しく学ぶことができた。探求学習の参考にした。
・国際協力の道に進みたいと思っており、NGO、NPOのイメージが具体的にになってよかった。香川にも国際協力をしている団体があるとわかったので、ボランティア参加等してみたい。
・将来の進路を考える上でとても参考になった。まずは自分にできることから始め、友達にも声をかけて一緒に行動できる仲間を増やしたいと思った。

7 写真



講演の様子



全体

(写真1)

(写真2)

以上

2021年7月3日

外務省国際協力局民間援助連携室

団体名

特定非営利活動法人
沖縄NGOセンター

NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、下記のとおりご報告します。

記

1 企画名および企画概要

企画名： 県内でできる国際交流ってなんだろう？

企画実施概要： ①企画内容 県内でできる国際協力について講義を行う。
②目的 新型コロナウイルス禍において海外への渡航が制限されている中においても、県内から国際協力ができることを知り、ひとりひとりが実践できる国際協力について意見交換する。当センターが実施している国際理解開発教育や、NGO相談員活動についても、活動目的や意義とあわせて紹介する。
③対象者および参加予定人数

沖縄大学1年次、問題発見演習内の授業にて、20名を対象に実施する

2 出張者氏名

佐々木綾菜、新膳朋子

オンライン講座の操作対応とグループセッションの際のグループファシリのため2名体制

3 依頼元／主催団体名

沖縄大学

4 実施予定日時

2021年6月16日 (水)

9:00~10:30

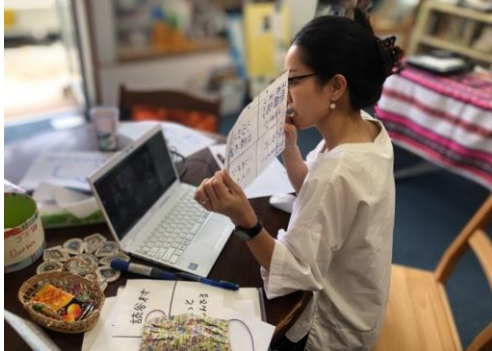
5 実施場所

オンライン

6 実施報告

- ・外部の方の話を聞けて結構楽しいお話をいただけたし、NGOの活動について興味ももてた。
- ・初めて知ったことも多くありそれらのことに対する驚きが大きかった。活動に興味をわいたし、面白かった。
- ・国同士はいろんな問題があるけれど、今日の講義を受けて、自分としてはこれからバイトや仕事につくときに会える外国人などとの交流を通して、気軽に接していい関係をつくれるように頑張りたいと思いました。

7 写真 ※オンライン講座のため、学生の顔を撮影できませんでした。

	
『「4つの窓」で自己紹介!』 自己紹介を通して学生の興味・関心を引き出すアクティビティのようす	

(写真1)